

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 25 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370680

研究課題名(和文) 外国語授業支援のためのアプリ・ソフト類のアーカイブ作成および教具・ツール類の開発

研究課題名(英文) Archive and Development of Software and Digital Tools for Foreign Language Education

研究代表者

木村 修平 (KIMURA, Syuhei)

立命館大学・生命科学部・准教授

研究者番号：20589709

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究プロジェクトでは、語学教育に携わる教員・研究者らが、ICTをどのように教育実践や研究に活用しているかの知見を集約し、その成果を2016年夏にFLEXICTカンファレンスを通じて公開した。同カンファレンスは盛況のうちに閉幕し、継続開催を望む声が多かったことから、語学教育におけるICT利活用が今日的な課題として広範に訴求しうるテーマであることを浮き彫りにすることができた。なお、本研究プロジェクトの分担者の一人である神谷は、自身が研究代表者を務めるプロジェクトとしてカンファレンスの継続開催を課題目標に据えた研究プロジェクトを2017年度科研費プロジェクトに申請し、採択されている。

研究成果の概要(英文)：This research project initially aimed at gathering insights how to make use of ICT from educators and researchers in the field of language education and made them public by holding a conference, named FLEXICT Conference, in the summer of 2016. The conference had nearly 100 participants and most of them answered via the questionnaire that they hoped for the conference to be held in the future. Therefore, we believe that this research project has shown a meaningful result that implementation of ICT in language education is an appealing theme today, taking into consideration how dramatically information technology and related devices strengthen their presence in today's language education. One of our members will be a principal investigator of a Kaken project starting in 2017 which intends to hold a conference to follow our FLEXICT Conference.

研究分野：言語情報学

キーワード：外国語教育 教育ICT CALL e-Learning

1. 研究開始当初の背景

本研究では学習者支援型、教員支援型の両方のツールを対象とする。学習者支援ツールのうち、とりわけ e-learning 環境を対象としたものについては、これまで多くの研究が行われ、その教育効果についても測定が行われるとともに多くの知見が蓄積されつつあるが、教員が授業現場でデジタル教具として利用するツール類については、数学・理科・情報教育といった理系科目の教育現場ではさまざまな開発と実践が行われているものの、外国語教育分野では教育実践に関わる知見の体系的な集積と開発等がこれまで十分に行われてきたとは言い難い。このことは外国語教育分野がいわゆる「文系」の出身者が主たる構成員であり、自らプログラミング等を行うことができる人材は「理系」出身者と比べると非常に少ないことと無縁ではない。

また、ICT を教育シーンに導入し利活用を促進するという流れは国策レベルで進められている動向ではあるが、そうした知見の集約機会のほとんどは首都圏を中心に行われており、必然的にそれ以外の地域の教職員には情報が十分に行き届いていないという現実もある。本来は物理的な地域の情報格差を埋めることが期待されていたはずの ICT の恩恵、中でもインターネットを介した情報の共有と人的ネットワークの構築は、残念ながら我が国では十分に機能しているとはいいがたい。

こうした状況を鑑み、まず関西エリアの教員が中心となって、首都圏とは別のオルタナティブな機会創出を行うべきでないかという問題意識が、本研究プロジェクトの土台となっていた。

2. 研究の目的

本研究では近年増加傾向にある、外国語教育に活かすことができるパソコン用ソフトウェアや e-learning ツール類、モバイルデバイス、アプリ類の電子教材をどのように授業の中に組み込むか、また授業で効果的に利用する方法について、これらを普段から率先して利用している研究代表者、研究分担者の経験と知見をナレッジデータベースとしてまとめ、これらについて経験の浅い外国語教育実践者に対して情報を提供するとともに、学術的な観点から学習効果等を検証することを目的とする。

また、ICT と外国語教育を融合させた教員の取り組みや知見を幅広く集約し、かつ社会と広く共有する機会を創出することも本研究プロジェクトの目的とする。首都圏に偏りがちな ICT 活用教育の情報を関西からも発信する場としてカンファレンスの開催を目指す。なお、このカンファレンスは本研究プロジェクト終了後も継続的に開催することを目指す。

3. 研究の方法

本研究課題は3年間の計画で実施される。初年度は既存のアプリ・ソフト類を利用した実践事例の記述に努め、研究代表者・研究分担者はそれぞれの立場から、国内外のデジタル教具の利用事例の収集と記述を行い、これまで開発が行われていない学習者支援ツール・教員支援ツールについても分析を行う。

2 年目はプロジェクト構成員を開発スキルの有無によって 2 つのチームに分割し、開発可能なメンバーは初年度の調査活動で未開拓であると判断された領域を補完する開発を行い、これらによって教育活動がどのように改善されるかという観点から提案を行う。また、非開発メンバーについては新たに登場するツール類について引き続き利用事例の収集と記述を行う。

3 年目は 2 つのチームの研究を総括するとともに、学会シンポジウム等の形式で外国語教育メディアの実践的な教育利用における新たな展望に向けて提言を行う。

4. 研究成果

平成 28 年度は、本研究プロジェクトの集大成として、外国語教育における ICT 利活用をテーマにした「FLExICT カンファレンス」を 2016 年 9 月 4 日(日)に立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市)で開催した。

FLExICT とは、“ Foreign Language Education X Information Communication Technology”の略で、外国語教育における通信情報機器(ICT)の活用を意味する造語であり、本研究プロジェクトの通称でもある。

FLExICT カンファレンスでは、研究発表の登壇者として英語・中国語・ドイツ語・日本語それぞれの言語の教育に関わる教員や研究者を事前に募集し、本研究プロジェクトの研究分担者を含む 16 名が自身の先進的な取り組みを発表した。

また、教育 ICT の分野を代表して飯吉透氏(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)、中国語教育の分野を代表して研究分担者でもある清原文代氏(大阪府立大学高等教育推進機構外国語教育センター教授)を招いて基調講演を行ったほか、発表登壇者らによるパネルディスカッション、イブニング・セッションを行い、約 80 名の参加者で賑わった。外国語教育と ICT に特化したカンファレンスの開催は国内的にも珍しく、本研究プロジェクトが当初設定した目標を十分に達成できたと考えられる。カンファレンスの報告を含む本研究プロジェクトの成果は専用 web サイト(<http://www.flexict.jp/>)に集約し、公開している。

5. 主な発表論文等
〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計9件)

1. 木村修平. Mozilla OpenBadges を用いた英語技能顕彰システムの構想. FLEXICT カンファレンス. 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市). 2016年9月4日.
2. 後藤一章. LangDraw と統語解析を併用した英文構造式の自動作成の試み. FLEXICT カンファレンス. 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市). 2016年9月4日.
3. 大前智美・首藤美也子. 発音練習を促すLMS機能の紹介. FLEXICTカンファレンス. 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市). 2016年9月4日.
4. 楊彩虹. 接客中国語のマルチメディア教材開発. FLEXICTカンファレンス. 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市). 2016年9月4日.
5. 田原憲和. ShowMe x EDpuzzle. FLEXICTカンファレンス. 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市). 2016年9月4日.
6. 今尾康裕. CasualTranscriber を使ったオンラインマルチメディア教材作成. FLEXICTカンファレンス. 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市). 2016年9月4日.
7. 近藤雪絵. Bring Your Own Presentation? 飛行機でたまたま隣に座った人にサッとできる五分間プレゼンを作るには?. FLEXICTカンファレンス. 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市). 2016年9月4日.
8. 神谷健一. 授業の活性化に繋がるかも? 種々の自作ソフトウェアを紹介. FLEXICTカンファレンス. 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市). 2016年9月4日.
9. 森真幸. 汎用コンピュータ教室におけるCBT型英語スピーキングテストシステムの運用. FLEXICTカンファレンス. 立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市). 2016年9月4日.

〔その他〕

ホームページ等

FLEXICT <http://www.flexict.jp/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

木村 修平 (KIMURA Syuhei)
立命館大学・生命科学部・准教授
研究者番号: 20589709

(2)研究分担者

大前 智美 (OMAE Tomomi)
大阪大学・サイバーメディアセンター・特任
研究員
研究者番号: 00379108

楊 彩虹 (YANG Caihong)

神戸山手大学・現代社会学部・非常勤講師
研究者番号: 00725509

難波 康治 (NAMBA Yasuharu)

大阪大学・国際教育交流センター・准教授
研究者番号: 30198402

近藤 雪絵 (KONDO Yukie)

立命館大学・薬学部・任期制講師
研究者番号: 30722251

山本 勝巳 (YAMAMOTO Katsumi)

流通科学大学・商学部・准教授
研究者番号: 40249818

神谷 健一 (KAMIYA Kenichi)

大阪工業大学・知的財産学部・講師
研究者番号: 50388352

今尾 康裕 (IMAO Yasuhiro)

大阪大学・言語文化研究科(言語文化専攻)・
准教授
研究者番号: 50609378

渡邊 ゆきこ (WATANABE Yukiko)

沖縄大学・人文学部・教授
研究者番号: 60320529

紅粉 芳恵 (BENIKO Yoshie)

関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員
研究者番号: 60580040

田原 憲和 (TAHARA Norikazu)

立命館大学・法学部・准教授
研究者番号: 80464593

氷野 善寛 (HINO Yoshihiro)

関西大学・東西学術研究所・ポストドクトラ
ルフェロー
研究者番号: 80512706

清原 文代 (KIYOHARA Fumiyo)

大阪府立大学・高等教育推進機構・教授

研究者番号：90305607

後藤 一章 (GOTO Kazuaki)
摂南大学・外国語学部・准教授
研究者番号：90397662

森 真幸 (MORI Masayuki)
京都工芸繊維大学・教育研究基盤機構系・助教
研究者番号：90528267

(4)研究協力者

飯吉 透 (IIYOSHI Toru)
京都大学・高等教育研究開発推進センター・教授

田中 裕也 (TANAKA Yuya)
フリーランスエンジニア